

大会宣言(案)

障がいに対する理解促進が一層求められるなか、ここに第66回全道身体障害者福祉大会石狩大会を盛大に開催することができました。

北海道身体障害者福祉協会は障害者権利条約のスローガンでもある「私たち抜きに私たちのことを決めないで」を掲げ、同条約が反映された国内法整備の実現をめざし、上部団体並びに障害関係団体と強く連携し、活動に邁進してきました。こうした活動が実を結び、本年2月に閣議決定された「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の作成にいたったと理解しています。

私たちがめざす共生社会は、すべての人の人権と尊厳が守られ、自己選択、自己決定による自立した暮らしの実現と、障がいに対する社会的障壁が取りのぞかれた社会であります。そして、何よりも平時はもとより災害や非常時において、何ら不安なく生活を営める地域社会であります。

日本の、あるいは北海道のどこにおいても、障がいを理由にする差別の禁止と合理的配慮の提供が、当たり前のこととして受け入れられ、定着させることが、喫緊の課題であります。障害者差別解消法を全国そして、北海道に根づかせ成長させることを、私たち障がい者団体の役割の一つと再確認し、明日の活動につなげていこうではありませんか。

北海道身体障害者福祉協会に結集する私たち障がいのある人々は、障害者権利条約のもと、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が障害者施策に実行されることを求め、全国の仲間とともに強い連携のもと、一致団結し行動することを誓い、ここに宣言します。

平成29年10月22日

第66回全道身体障害者福祉大会石狩大会

大会決議(案)

- 1 心のバリアフリーの推進を図ろう
- 2 障がいの社会モデルの考え方を道内全域に広げよう
- 3 道内全域に障害者差別解消法の更なる周知を図ろう
- 4 会員減少に歯止めをかけ組織の活性化を図ろう

平成29年10月22日

第66回全道身体障害者福祉大会石狩大会